

KHJ 全国大会 in 香川

10月31日～11月1日 会場：香川県社会福祉総合センター（高松市番町1-10-35）
 ・基調講演：船越明子（兵庫県立看護大学助教授）「親の歩みと子どもの変化」
 ・行政説明：日野 徹（厚労省社会・援護局 地域福祉課 課長補佐）「国におけるひきこもり施策」・シンポジウム「生活困窮者自立支援においてKHJができること」（仮）
 ※旅立ち・76号の開催期日はミスプリントでありお詫び致します。



NPO 法人 全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）代表 池田 佳世
 第78号 発行日 平成27年7月5日(日) 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-4-4
 TEL 03-5944-5250 FAX 03-5944-5290 http://www.khj-h.com
 Facebook: http://www.facebook.com/khj.ho / Twitter: http://twitter.com/hikikomori_khj

KHJの厚労省H27年度 社会福祉推進事業 認定

KHJの厚労省「H27年度社会福祉推進事業」は、4月21日申請通り（1500万円）認定されました。今年予算が3分の1（2億円）に縮小された中で満額認定です。これは、4月から新たに「生活困窮者自立支援法」が施行され、ひきこもり支援について、全国的に「住み慣れた身近な地域」で実効性ある取り組みを目指す厚労省のKHJへの経験と実績による期待です。皆さん、今年度も昨年同様にしてKHJの総力で事業の成功のために取り組みましょう。

主な認定事業

- 1 ひきこもりの当事者と家族に適切なアセスメントに基づく支援プロセスを提示する。
- 2 ピアサポーターの養成・派遣をより効果的に実施するための調査研究。
- 3 ひきこもりピアサポーター養成・派遣事業（フォローアップ研修、地域コーディネーター研修）
- 4 ひきこもりピアサポーター養成研修テキストの標準化。



KHJ「ガイドライン・アセスメント事業委員会」発足 日本のトップクラス12人で構成



6月7日、12時から豊島区民活動センターにて、KHJの「ガイドライン・アセスメント事業委員会」の初会合が開催されました。これは、「生活困窮者自立支援法」の施行を受けて、全国の自治体（特に市区町村）が、ひきこもり支援の相談員を養成するためのガイドラインとひきこもり支援に

委員（五十音順、敬称略）	
池上正樹	ジャーナリスト
池田佳世	NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 理事長
石川良子	松山大学 准教授
川北 稔	愛知教育大学 准教授
斎藤まさ子	新潟青陵大学 教授
境 泉洋	徳島大学大学院 准教授 KHJ理事
鈴木美登里	NPO法人名古屋オレンジの会 KHJ理事
竹中哲夫	日本福祉大学 名誉教授
中垣内正和	ながおかのクリニック 院長 KHJ副理事長
船越明子	兵庫県立大学 准教授
丸山康彦	ヒューマン・スタジオ 代表
牟田武生	NPO法人教育研究所 所長

当たつての効果的なアセスメントシートの作成を目的に、H27年度の厚労省の補助金で行われるものです。委員の方は表のとおり、日本でのひきこもり支援で活躍されている大学名誉教授、教授、助教授、医師、支援者などトップクラスの方々12人です。（斎藤先生はこの日都合があり、欠席されました）はじめに池田KHJ理事長が「KHJが取

り組んだピアサポーター養成・派遣事業が厚労省に評価され「ひきこもり支援が、生活困窮者自立支援法で行われます。KHJがガイドラインとアセスメントシートを作成することになりました、宜しくお願いします」と挨拶しました。

委員長の境先生が本部で用意した資料と各委員から出された資料の確認と説明を行い、そのあと各委員の自己紹介の挨拶、本部事務局のスタッフ（上田、奥山、石倉、山本）の紹介がありました。

今後スケジュールは、来年の3月の完成を目指して、メールなどでやり取りし、あと3回の会議を決めて午後3時過ぎ、初会合を終わりました。（伊藤



伊藤代表の挨拶があり、元県会議員（支援者）の意欲で乾杯、次いで参加全員の自己紹介を兼ねての1分スピーチがありました。米沢の美味しいすき焼きと地酒を味わいながら、蓋書（うんちく）のあるスピーチを聞きまし

た。荒川さんは、「昨年10月に開催されました。元山形県公安委員長、元県会議員、元米沢市教育長、元小学校長、元小学校教頭・教師、住職などそうそうたる方達、全て「からころ」の理事か支援者です。他は「からころ」のスタッフとKHJ本部理事・伊藤など20人が参加。

日野さんは「からころ」の活動を見て、いいものに仕上げて行きたい。当事者・苦しんでいる方に希望が持てるようにしたい。佐藤政一さん（理事・元米沢市教育長）「教育長として必死にやってきました。こうした取り組みが世の中を変えて行くと思

6月5日、学習会は、米沢市の「すこやかセンター」で開催されました。参加者は、山形県・県精神保健福祉センター（2）、南陽市福祉課（1）、米沢市置賜支庁福祉課（1）、米沢市置賜保健所地域保健予防課（1）、鶴岡地域生活自立支援センター（1）、やまがたサポーター（1）、米沢市社会福祉協議会（2）、米

KHJ「からころセンター」(米沢市)の活動を全国に 厚労省の三氏 懇親会、学習会、居場所訪問取材

山形県米沢市のKHJ「からころセンター」は、①地域連携が進み、②居場所での相談・若者支援・軽作業に取り組み、③地域に根づいたレストラン運営（キッチンからころ）、④地域で一人暮らしをする老人宅へ弁当を若者が配達しているなど、「生活困窮者自立支援法」を先取りした先進的な活動をしています。

6月4日と5日、厚労省の荒川英雄氏（社会・援護局保護課 自立推進・指導監査室長）、日野 徹氏（社会・援護局地域福祉課課長補佐）、丹菜々子さん（社会・援護局地域福祉課）の三人を迎えて、①ネットワーク関係者との懇親会、②「ひきこもり施策について」学習会、③居場所の訪問、若者スタッフとの懇談が行われた。以下、そのハイライト。（伊藤

う。楠裕之さん（理事・元当事者の親・住職）「住職です。私の娘がひきこもりになり、一時期、親としてどうしていいか葛藤の連続でした。お寺は人に生き方を示し、困っている人の逃げ場なの……。からころセンターの居場所のお陰で、今、娘は鍼灸マッサージ師をしています。」

中川勝（元県議・支援者）「広島県の全国大会に参加、厚労省の女性の課長補佐の話を聞き、県はどうするのだとやりました。吉田美智子理事・元小学校校長・元山形県公安委員長「38年間教員、校長を6年、一番言いたいことは、人は人にして人にしか育てられない。だから育てる人間がもっとかしく、もっと優しくなりましょう。」など、時間を忘れて懇親会は続きました。



荒川さんの講演「今後のひきこもり支援について」

はじめに、「絶対的貧困と相対的貧困について」説明がありました（「旅立ち」71号参照）。次いで、荒川さんは「時代を振り返る」として、戦後70年間に日本はどんな

（このコーナーは2面に続く）

米沢の活動を全国への続き

意識改革 社会改革を



「意識改革」と言われており、ひきこもりはその現象です。

社会との関係性があるから自分の役割が解るのです。例えば、同居老人に配食サービスや見守り・安否確認などして「有難う」と言われることは、物凄く精神的なサポートの言葉になり、俺も役に立っている」と認識します。

H12年の「報告書」の具体化が「生活困窮者自立支援法」平成12年に「社会的な援助を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検

討会」報告書」が出されました。これを具体化したものが「生活困窮者自立支援法」です。ですから、原点にもどるには、この報告書を読んで頂くことが大切です。

私は、自論として「着眼大局、着手小局」が大好きです。目の付け所は大きく、小さい事をコツコツと自分と未来は変えられます。自分を変えようと組織も変わります。皆さんの取り組みに期待して話を終わらせて頂きます。(大きな拍手)

日野さんの講演「ひきこもり施策について」



私の課(地域福祉課)の主な業務は、ひきこもりの施策の他に、①社会福祉協

丹さん「平成27年度地域福祉関係について」



4月から生活困窮者自立支援制度がはじまり、地域福祉課の予算が再編されました。全国各地に総合相談窓口が設置されて相談に応じ、支援を行います。

奥山さんや愛知の伊藤さんらは15年前から、ずーと当事者を抱える親子さんとしてやってこられました。日本は1億2千万が総うつ状

今更のことは

日々私どもがひきこもりの施策を進めるに当たり、全国組織である全国引きこもりKHJ親の会と意見交換しながら取り組んでおります。

今日は、①ひきこもりは、社会の大きな変化の中で起きていくこと、②現在のひきこもり施策について、③生活困窮者自立支援法とひきこもり施策の関係について、お話しします。

私はひきこもり施策に携わって3年目です。当初、ご本人やご家族が先行の見えない不安・苦しみ・辛さを持つておられることは、正直想像出来ませんでした。

ひきこもりの方は、長きにわたり社会的疎外感、先行きの見えない不安・孤独を常に24時間感じながら生きてゆく事は、言葉では言い表せない辛さです。そこにより適切な施策を進め、みんなが笑顔で幸福に生きていける社会にと強く思っています。

ひきこもりは、社会の大きな変化の中で起きていく

ひきこもり問題の時代背景を考えると、大きく社会が変わった事です。敗戦後焼け野原となり多くのものを失いましたが、その悲惨な状況の中から、多くの方の必死の働きで、今では世界に類を見ない非常に豊かな大国になりました。しかし、その経済発展の大きな変化の中で、効率性・経済性優先の個人主義の進展、核家族化の進行、学力主義・成績主義、徹底した結果主義が合

わけて進行し、それに伴って人間に対する思いやりであるとか、助け合い、お互い様、お陰様など、かつて日本社会が持っていた良い精神文化が薄れて来ました。このように時代背景を踏まえて現在の社会を見ると、大きな経済発展でモノは豊かになりましたが、人間の心が失われてしまいました。

合わせて、情報化が加速度的に進行し、人と人との直接コミュニケーションの機会が大きく減少し、もう一つ大きなものに、教育現場が昔から変わってしまった。本来、教育の現場とは、生きていくための人間を育てる、人間として生きる力・生きる道を教える場であるはずで

長い人生には成功ばかりでなく、時には失敗もあります。失敗したからこそ新しい成功を掴むチャンスが生まれる事もあります。失敗が糧になり、七転び八起き、いつでもやり直しが出来る懐の広い社会にしていかなければと、私も日々ひきこもりの施策に取り組んでおります。ひきこもり問題は、大きく変わった社会の変化があります。だから、社会全体で取り組む課題です。

「地域づくり」、この制度を通じて地域作りをする事も大事です。地方にはいろいろな課題がありますが、「支えられていた人」から「支える人」に回るための仕組みづくりを、各自治体の創意工夫で進める事が求められます。

様々なネットワークの構築を「住み慣れた地域(市町村)での相談体制の構築」により、より相談の機会が多くなります。ここでのひきこもり相談の対応を充実させるのには、「自立相談支援機関」での様々なネットワーク(教育、経済、農業、家族会、NPOボランティア・・・)

「新しい支援のかたち」は、包括、個別、早期、継続分権的・創造的支援であり、主役は地域です。

「包括的な相談支援」として「自立相談支援事業」から始まり、総合的にこの窓口で受け止めます。その後状態に応じた多くの支援があります。ひきこもりについては、昼夜逆転や生活リズムを取り戻し、対外的にコミュニケーション能力を身につけるなど、社会的・日常的訓練が大切になります。順序立て確実に社会参加に繋げて行く制度です。親の会などの就労訓練事業も大切です。

「事業」は、「必須事業」として「自立相談事業」として「居住確保給付金」があり、六つの「任意事業」があり、その中に「ひきこもり対策推進事業」があります。

「地域づくり」、この制度を通じて地域作りをする事も大事です。地方にはいろいろな課題がありますが、「支えられていた人」から「支える人」に回るための仕組みづくりを、各自治体の創意工夫で進める事が求められます。

「地域づくり」、この制度を通じて地域作りをする事も大事です。地方にはいろいろな課題がありますが、「支えられていた人」から「支える人」に回るための仕組みづくりを、各自治体の創意工夫で進める事が求められます。

「私の原点は「報告書」別にお配りしている資料の中にもありましたが、「社会的な援助を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書。私もひきこもりの施策を作るに当たり、バイブルじゃないですが、原点に戻るために何度もこれを読み返す時があります。

最後に、ひきこもりの施策を進めるに当たって、本人と家族に焦点を当てて下さい。この焦点がずれると施策が実効性・有効性が伴わない、形だけの支援になります。

私の非常に好きな言葉があります。「他人と過去は変えられない、自分と未来は変えられる」です。過去に起こってしまった事は変えられませんが、これから自分はどうにも変える事が出来ます。この言葉が私の力になっています。世の中情報ですとか便利になつて来ましたが、人に手を差し伸べ、人の心を癒す事が出来るのは、最後は機械ではなく人です。

ひきこもりの状態にある本人と家族は先行きの見えない不安とか孤独、計り知れない苦しみの中にある事を皆で共有し、笑顔が取り戻せる支援をして行きました。ありがとうございます。(大きな拍手)

米沢はさくらんぼで有名なです。そのさくらんぼと「うこぎ」の新芽のてんぷらを戴きながら支援者の皆さんからお話を伺いました。

「私の原点は「報告書」別にお配りしている資料の中にもありましたが、「社会的な援助を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書。私もひきこもりの施策を作るに当たり、バイブルじゃないですが、原点に戻るために何度もこれを読み返す時があります。

最後に、ひきこもりの施策を進めるに当たって、本人と家族に焦点を当てて下さい。この焦点がずれると施策が実効性・有効性が伴わない、形だけの支援になります。

私の非常に好きな言葉があります。「他人と過去は変えられない、自分と未来は変えられる」です。過去に起こってしまった事は変えられませんが、これから自分はどうにも変える事が出来ます。この言葉が私の力になっています。世の中情報ですとか便利になつて来ましたが、人に手を差し伸べ、人の心を癒す事が出来るのは、最後は機械ではなく人です。

ひきこもりの状態にある本人と家族は先行きの見えない不安とか孤独、計り知れない苦しみの中にある事を皆で共有し、笑顔が取り戻せる支援をして行きました。ありがとうございます。(大きな拍手)

米沢はさくらんぼで有名なです。そのさくらんぼと「うこぎ」の新芽のてんぷらを戴きながら支援者の皆さんからお話を伺いました。

学習会を終わって「から・ころセンター」へ



6月5日午前の「学習会」を終わって、「から・ころセンター」を訪問。借りた民家が居場所、作業所、事務所、相談室などとして使われおり、1階では紙コップのシー

若者達の軽作業(10時〜15時)が終わり、1階の大広間に若者、支援者、訪問者が集まり懇談しました。伊藤代表が自己紹介の見本を示し、名前、年齢、住まい、趣味、家族、親戚、信条などを話します。そして、次の人を指名し、次々とリレーされていきます。

軽作業が終わり、若者・支援者・訪問者で懇談

若者15人(18〜43歳)、ひきこもった原因、悩み、苦しんだ事、ここへ来るきっかけ、などを切々と話します。共感あり、時には質問ありと進んでいきました。荒川さん、日野さんの若者への接し方は、上からの視線でなく、人間味にあふれており、とても心が和んだ懇談でした。

米沢での2日間は有意義



米沢での2日間は有意義



米沢での2日間は有意義

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyo-Shakai/000059098.pdf>

KHJ通常総会と 支部長会議開催

6月21日、KHJ通常総会と支部長会議は、東京都新宿区工ステック情報ビルで開催された。
この総会と支部長会議への議題は、4月29日、KHJ理事会での決定です。以下、総会と支部長会議の要点です。(敬称略)

KHJ通常総会

午後1時30分、池田理事長が「出席48支部(委任23)で総会は成立した」と告げ、中垣内副理事長が「この数年間の経過から見て、当

はじめに池田理事は、4月29日の理事会で、新理事に鈴木美登里さん、副理事長に伊藤進理事を決めた報告、本部事務局の新体制8人(上田理香、野中俊介、深谷守真、奥山毅、岩野雅夫、山本宣代、石谷宏志)を紹介。議長は境理事、議



木美登里さん、副理事長に伊藤進理事を決めた報告、本部事務局の新体制8人(上田理香、野中俊介、深谷守真、奥山毅、岩野雅夫、山本宣代、石谷宏志)を紹介。議長は境理事、議



会の今後の展開が日本国民の心の健康の重大な鍵となる」と開会宣言をおこない、議長に境理事を選出し議論が行われました。

事録署名人に市川乙允(東京京葉の会)、藤江幹子(千葉真の花会)を承認し、討議が行われた。
定款の変更、要点を本部事務局(深谷)から報告し、満場一致で承認された。その主な点は①第1条の会の名称は「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」に変更、略称はKHJ(Kazoku Hikikomori Japan)とする。②第5

条(事業に「講演、執筆事業」と「出版事業」を追加する。③第27条(総会の定足数)を「10分の1以上」から「3分の1以上」に変更。④その他技術進歩に伴い「ファクシミリ、又は電磁的方法」の追加と誤字脱字の修正です。なお、この新定款が効力を



發揮するのは早くも11月頃の見通しです。
次いで、本部事務局(上田)が事業と活動報告を行いました。平成26年度事業と活動報告、当該家族へのメンタルヘルスケア事業、若者の居場所事業、訪問サポート・カウンセリング事業、セミナー・フォーラム事業、機関紙・ホームページ事業、調査事業など10本の取り組みの詳細と収入、支出、並びに赤字には前期繰越金を当てたことが報告

支部長会議



②事務局(上田)が、ピアサポーター養成研修、認定・継続研修(別掲)などを報告
③伊藤副理事長が厚労省の施策の「原点」について報告
◆日本財団事業「ひきこもり大学」対話集会について、鈴木理事と池上さんが報告(別掲)、そのあと、協力3団体の森下さん、横山さん、ひきこもりフューチャーセッション庵・IORIの紹介がありました

H27年度 厚労省・ピアサポーター養成研修事業

(1)ピアサポーター養成研修(新支部、ピアサポ不在支部)
実施日程：平成27年9月21日(月)祝)〜9月23日(水・祝) 2泊3日の合宿(合同)研修
場所：富山県宇奈月温泉 宇奈月自立塾
対象者：50名(新支部15支部及び、ピアサポーター不在の支部所属の家族、当事者が優先)
各支部1〜3名まで。
目的：参加型の体験学習、実践に即した研修を実施。合宿研修により支部同士の交流、連携を深める。
旅費：往復6〜7割補助予定
(2)認定ピアサポーター継続研修(25年度、26年度の認定ピアサポーター対象)
実施支部：全国6ブロック(東北、北陸、関東、東海近畿、中四国九州沖縄)

実施日程：平成27年9月〜平成28年1月までの間に実施を完了すること
実施日程(会場選定は9月までに決定することが望ましい。
実施企画：各ブロックのピアサポーター部会にて地域性に合ったオリジナルの研修を企画
合宿研修、日帰り研修などスタイルは自由。
補助額：会場費、事務諸経費↓上限4万円まで補助
旅費↓往復5000円以下は自己負担。往復5000円以上の場合7割補助
謝金↓講師及びスパーバイザー謝金(時間給)は全額補助
①学教授級7,100円、②准教授級6,200円、③その他4,700円
③地域コーディネーター研修 実施日：11月1日(香川大会の2日目第3分科会で開催)

開始は午後3時17分、司会進行に伊藤副理事長を選出。はじめに参加各支部の自己紹介の挨拶(1分)、初参加の3支部あり、KHJの全国的な組織力と各支部の活動の豊かさや活気が語られた。以下、6本の議案の報告と討論の要点です。
◆本部事務局(上田)より、最新の支部数は39都道府県50支部になった。「ひきこもり地域支援センター」の未設置は4県に、昨年度の事業報告書やDVDなどを本部財政確立のため実費で提供するなど報告。
◆厚生労働省社会福祉推進事業について、①境委員長(理事)がアセスメント・ガイドラインシート作成検討事業について報告(別掲)。



◆今年度の香川全国大会(10/31-11/1)について、香川オリープの会の川井支部長から綺麗なビラを示しての説明があった。
◆支部組織力の強化について、①全国ネットワークを活かした取り組みについて、

の森下さん、横山さん、ひきこもりフューチャーセッション庵・IORIの紹介がありました
◆今年度の香川全国大会(10/31-11/1)について、香川オリープの会の川井支部長から綺麗なビラを示しての説明があった。
◆支部組織力の強化について、①全国ネットワークを活かした取り組みについて、



三膳(新潟)、境理事伊藤(から・ころ)、中垣内副理事長から提案があった。②各支部からの問題提起(発足後の

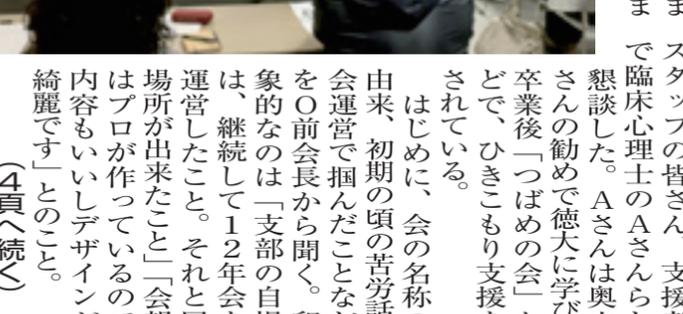
果」の報告などがあった。
◆「旅立ち」をより魅力的にするための提案と協力が伊藤編集長からあり、午後4時55分、中身の濃い議論が終わった。
なお、会議の詳細については、議事録とブルーレイディスクがあります。本部に問合せください。

私(KHJ理事伊藤)は5月17日、阿波踊りで有名な徳島県の「つばめの会」の月例会に参加した。なぜ徳島に、それは、高橋会長さんは息子さん(3月)に亡くされ、その気持ちと苦悩を切々と「つばめの会」の会報に書かれていた。私も、8年前に息子を亡くしており、高橋さんの気持ちがピンピンと伝わり、直ぐに連絡を取ったら、話が飛躍して、月例会で「体



KHJの15年の歴史をグラフで示し、9回まで全国大会の特徴と奥山さんの活動や国の支援策の大きな前進を語り、最後に皆さん、「助けて貰う」から「助け合う」生、「つばめの会」の高橋会長、スタッフの皆さん、支援者で臨床心理士のAさんと懇談した。Aさんは奥山さんの勧めで徳大に学び、卒業後「つばめの会」などで、ひきこもり支援をされている。

月例会は「つばめの会」の会員さん、香川県「オリープの会」の川井会長など約40名の参加。はじめに、高橋会長の挨拶、そのあと、私と境先生が講演を行った。私のテーマは「引きこもり者と家族の関係について」。私は「第2第3の子を出さないために」「私の失敗経験を生かして欲しい」「KHJ15年で国のひきこもり支援は大きく前進している」「これを希望に元気に活動しましょう」と話した。
境先生のテーマは「親の会の現状と今後の課題」



拍手があった。
スタッフの皆さんと有意義な懇談
月例会を終わって、境先生、「つばめの会」の高橋会長、スタッフの皆さん、支援者で臨床心理士のAさんと懇談した。Aさんは奥山さんの勧めで徳大に学び、卒業後「つばめの会」などで、ひきこもり支援をされている。

はじめに、会の名称の由来、初期の頃の苦労話、会運営で掴んだことなどをO前会長から聞く。印象的なのは「支部の自慢は、継続して12年を運営したこと。それと居場所が出来たこと」「会報はプロが作っている内容もいいデザインが綺麗です」とのこと。(4頁へ続く)

「ひきこもり大学」KHJ全国キャラバン2015開催予定(「旅立ち」(76号)参照)

日程	都道府県	支部名
7月 11日(土)	徳島で大学	徳島県「つばめの会」
12日(日)	宮崎で大学	みやざき「楠の会」
18日(土)	愛媛で大学	愛媛県こまどりの会
26日(日)	神奈川で大学	神奈川虹の会
8月 23日(日)	宮城山形(東北ブロック合同)	宮城県「タオ」、山形県「からころ」
9月 6日(日)	茨城で大学	茨城県「ひばりの会」
12日(土)	大阪で大学(近畿ブロック)	大阪虹の会 つばさの会?
10月 11日(日)	栃木で大学	とちぎベリー会
18日(日)	沖縄で大学	沖縄ていんさぐぬ花の会
11月 1日(土)	香川で大学(中四国ブロック合同)	
7日(土)	本大会(全国当事者交流会) 150名	(日本財団・大会議室 AB)
21日(土)	千葉で大学	千葉県の花会
28日(土)	北海道で大学	北海道「はまなす」
29日(日)	長岡(新潟)アオーレで大学	KHJ長岡フェニックスの会

詳しくはKHJ本部又は各支部にお問い合わせ下さい

